

kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】 McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-*

Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology. 183—238 in

McC. Brooks, Ch. and Cranefield, P.F. (eds.):

The Historical Development of Physiological Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は「コピーを一部添付する」と。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので「手元にコピーを一部残すこと」。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

千一三三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

未曾有の暑い夏を克服して、諸賢

には無事爽秋をお迎えのことと思

う。◆ここでは欧文抄録について書いておきたい。論文本体から見て二次的な比重を持つに過ぎないことが、投稿に際して不必要な負担になっては困るからである。◆欧文抄録はもとも文部省から補助を頂いていることに伴う要請に依って今日に至っている。日常的に欧文を使っていないわれわれに、この点でご協力頂いているのが編集顧問のブルース・アレン氏である。同氏は順天堂大学で英語を教えておられ、現編集委員会の発足当初からご尽力願っているが、従来と異なり、必要に応じて委員会に足を運ぶなど、献身的にご協力下さっている。◆前回の投稿規定の改訂に見られるとおり、欧文抄録の対訳和文を必須として要求されたのも同氏であり、大文字使用上の原則なども氏の示唆に拠っているが、私どもとして特に有難いのは、原意を活かせる限りで原文に極力近い形の訂正を心がけて頂いている点である。よくよくのことがない限り、根治手術に頼らず、保存的に処置して頂くのが有難いことは、経験者なら充分理解されると思う。◆どうぞあまり億劫がらずに欧文抄録を作って頂きたいが、その際ぜひ題名と全著者名も和欧文ともに忘れず含めて頂きたい。それが一つでも欠けると、アレン氏から私宛の書簡に基づいて編集の最終過程である裏表紙の作成手順が狂ってきて、発行が一週間程度遅れるのがここ数号の現状だからである。(三輪卓爾)